

2026年8月10日（月） 送付枚数：3枚

教養部 白木優馬講師の研究成果が 国際学術誌「Motivation and Emotion」に掲載されました ～感謝度認識のギャップの原因を解明～

愛知学院大学（愛知県日進市、学長：木村 文輝）教養部の白木優馬講師は、見知らぬ人への親切における「感謝の過小評価」とその解消について突き止めました。この研究成果は、国際学術誌『Motivation and Emotion』に掲載されました。概要は、以下のとおりです。

<研究成果のポイント>

■ 見知らぬ人への親切における「感謝の過小評価」を解明

➡ エレベーターでドアを押さえる・落とし物を拾うといった行為において、親切をした人は「相手はそこまで感謝していないだろう」と、相手の実際の感謝度を低く見積もるというギャップがあることを実証しました。

■ ギャップの原因は「親切した側の悲観的な予測」

➡ ギャップの原因が、受け手側が過剰に感謝度を高く報告すること（自己呈示）ではなく、親切をした側が一方向的に悲観的な推測をしてしまうことに起因することを特定しました。

■ 「ありがとう」の一言でギャップが解消

➡ 受け手が言葉で直接感謝を伝えることで、親切した側の過小評価は消滅し、認識のズレが解消されることを突き止めました。

<本研究の社会的意義>

ギャップに起因する「感謝されていないかもしれない」という悲観的な推測は、相手が抱く実際の感情とは異なる誤った認識であり、見知らぬ他者と関わる際の心理的バリア（壁）を無意識に構築してしまい、親切を控えることにつながる可能性があります。本研究は、日常のささやかな「ありがとう」という言葉が誤った認識のギャップを埋め、見知らぬ人同士のあたたかい行動や親切の循環を促すきっかけとなることが期待されます。



<研究者からのメッセージ>

日常のちょっとした場面で、通りがかりの見知らぬ相手に何気なく親切をすることがあると思います。そんな場面で、「相手はさほど感謝してくれていないかもしれない」と思うことはありませんか？でも実は、相手はとても感謝しているはずです。ちょっとシャイで言葉に出して感謝を伝えられないだけなのです。

そんなあなた自身も、通りがかりの人からさりげない親切を受けたら、これからはちょっと勇気を出して言葉にして「ありがとう」を伝えてみませんか。そうしたら、小さな親切と感謝の輪が少しずつひろがり、今よりもっと優しい社会になっていくかもしれません。

【掲載論文情報】

題 名： Underestimating the gratitude of strangers: how givers pessimistically predict recipients' gratitude for small acts of kindness. (見知らぬ他者からの感謝の過小評価：小さな親切に対する受け手の感謝を与え手は悲観的に見積もる)

著 者： Yuma Shiraki

掲載誌： Motivation and Emotion(Springer Nature社刊)

※取材にお越しいただける場合、別紙来訪申請書をご記入いただき、下記お問い合わせ先までメールにてご提出ください。

<研究内容に関するお問い合わせ>

愛知学院大学 教養部 講師 白木優馬

TEL: 0561-73-1111 (代) E-mail: shiraki@dpc.agu.ac.jp

<取材に関するお問合せ・申し込み先>

愛知学院大学 総務部総務課 小川・古谷・寺倉

TEL: 0561-73-1111 (代) E-mail: somu@dpc.agu.ac.jp
